

足立租税教育推進協議会会長賞

「私と税金との関わりについて」

足立区立 第十四中学校

三年 鶴巻 小夏

私は中学校の水泳部に所属しています。大会は東京オリンピックの競泳競技場であった江東区の東京アクアティクスセンターで開催されます。今年も何度も通い、泳ぎました。このプールは屋内設備なので水温が良いタイムが出やすい適温に維持されて、大変素晴らしい会場だと思います。

一方、パリオリンピックの競泳会場は通常ラグビーの競技場に仮設のプールが設置されました。オリンピック終了後は仮設のプールは撤去されるとの事です。

パリの中学生で水泳をやっている人達はオリンピックが開催されたプールで泳ぐ事ができないのに対し、東京に住んでいる私達はオリンピックが開催されたプールで泳ぐことができるのは恵まれていると感じました。

同競技場で開催される中学校の大会のエントリー費用は一種目に対し千円です。時々、そのプールは一般開放をしております。入場料は七百円です。この費用だけでは、同設備の建設費や運営費を賄うだけの収入は得られていないのでは無いかと考えました。

調べてみると、この設備の建設費は五百億円、年間運営費の支出は約一億円に対し収入は数千万円でした。建設費と収支

の差額は税金で賄われているとの事でした。

もしも利用料が大幅に値上がりしてしまうと、私達が大会に参加するのも、利用するのも難しくなってしまうと思います。

横浜国際水泳場は採算性の問題により利用者が少ないプールを廃止して体育館への転用を検討しているとの事です。

税金の全体の歳出のうち、水泳競技のような「教育と文化」に対して国は五%に対して東京都は十六%割いています。「福祉と保健」には国は三十三%に対して東京都は十九%割いています。

税金の使いみちについては、横浜国際水泳場の採算性の議論のように水泳競技者のような特定の人達のために使うのは望ましく無いのではないかという意見もあると思います。東京に住んでいる私達は、税金のおかげで恵まれた環境で水泳競技ができる事を感謝したいと思います。

国の歳入のうち一番多いのは六十二%の税金と印紙であり、重要であると理解しました。そのうち二十一%は消費税であり、私も一部貢献していることが分かりました。

今後、日本は少子高齢化が更に進み、医療・年金・介護・福祉などの社会保障の費用を社会保険料だけでは賄えず、国債の発行に依存しているという課題があります。

今回の作文により、税金は私の日々の生活に身近なものとして考えることができ、更に私の身近なもののどこにどのように使われているのかを知りたいと思いました。